

あすなろ

静岡県伊豆市小下田 2492 駿豆学園 令和7年3月31日 245号
TEL0558-99-0248・FAX99-0258



新年度に向けて

園長 天良 昭彦

春を迎え、多くの人にとって環境の変化が訪れる巣立ち、旅立ちの時期となりました。この春、伊豆市内の三つの中学校、修善寺中、天城中、中伊豆中では最後の卒業生を送り出し、閉校の運びとなりました。在校生は四月から伊豆中学校という素晴らしい環境の整った新設の学び舎に統合され中学校生活を送ることになります。今まで以上に多くの友達との学びや部活動等で切磋琢磨し、新たな中学校生活を満喫出来ることと期待しています。また、未来の地域福祉の担い手として、ふるさとの共生社会実現のための福祉教育や福祉的感性の醸成の場であつてもらえれば、なお頼もしい限りです。

新年が明け、令和六年度残り三か月が穏やかに終わってくれば何よりと思っていました。一月にアメリカ・ロサンゼルスで発生した大規模な山林火災には驚愕しました。そして、二月から三月にかけては岩手県大船渡市でも大規模な山林火災で大きな被害がありました。その後日本各地でも発生し、この巻頭言を記している今この時も愛媛県今治市と

岡山市南区で発生した山林火災は延焼拡大が収まらず、消防隊や自衛隊が消火活動にご苦労されているとの事です。私の記憶では、国内でこんなにも立て続けに大きな山林火災が発生したことは過去に無かった様に思いますが、認識不足ででしょうか。被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

地球温暖化が進むと、気温が上がるだけでなく極端な乾燥と強風が起りやすくなることで山火事が起きやすくなることとです。ただ、一方でこれらすべての火災の発火源は人によって起こされたものと考えていいと思います。

私たち障害者支援施設では、長年避難訓練や設備の点検が義務づけられています。仮にその部分がおろそかになれば火災のリスクが容易に高まり、利用者の命が危険にさらされ地域の皆さまにも多大なご迷惑をおかけすることになります。出火が人的要因であるならば、職員の意識を高め事前に危険箇所の点検を強化することで防ぐことが出来るはず。地震や水害といった大規模自然災害への備えと同時に、施設の足元にある細やかな安全確保もより一層強化する新年度としたいと思います。

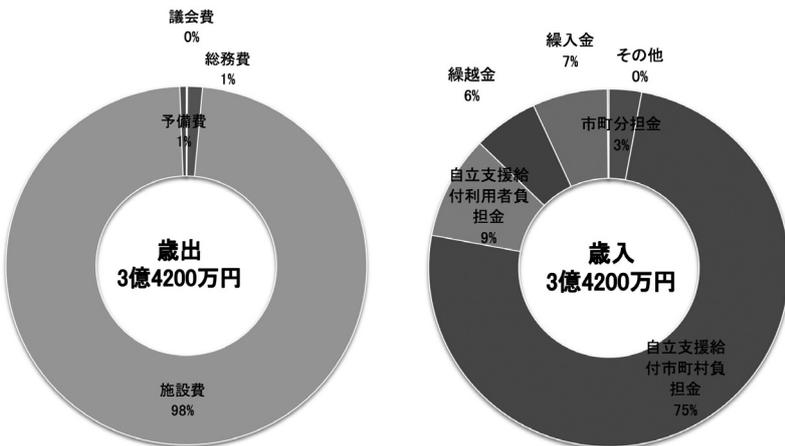
令和七年度当初予算について

総務課長 山口 深志

令和七年度当初予算が、去る令和七年二月六日の組合議会において可決成立しましたので、ご報告いたします。一般会計予算は、歳入、歳出それぞれ三億四千二百万円を計上し、前年度と比較すると二千八百万円、約八・二%増額の計上となりました。主な予算科目について説明します。

歳入ですが、収入の七十五%を占める、自立支援給付市町村負担金を四千六百五十万円、約二十%増額の二億五千六百五十万円計上しました。令和六年度の報酬改定により増額を見込みました。令和七年度当初予算は、歳入増が見込まれたため、財政調整基金繰入金は計上せず、施設長寿命化工事に充てる施設整備基金繰入金を前年度比約二十八%、五百万円増額の二千三百万円計上しました。次に歳出ですが、議会費については、前年度と同額、総務費については、約五十%、百六十万円増額の約四百六十万円計上しました。例規集の追録に充てるための計上となり、施設費については、前年度比約二千六百万円、八・六%増額の約

三億三千五百万円を計上しました。令和六年度の給与改定に基づく人件費の増額や物価高騰の影響による需用費の増額が主な理由となっています。令和七年度も施設長寿命化工事を計画しています。現在の施設が少しでも長く使用できるように適切な管理をし、利用者の皆さんが、安心して充実した生活がおくれるよう、適正な予算執行を心がけていきます。



個別支援計画

支援課長 木村 悦治

年度末、三月の職員会議は一年の総括として各部会、係、日中活動、クラブ活動等、支援及びサービス提供についてまとめを行い、並行し次年度前期の個別支援計画が作成されました。

個別計画は、利用者の皆さん個々の支援内容や目標を記載する計画書で、半年毎に更新されています。当園では計画作成に伴いケース会議を開催し職員間での情報の共有を行い、基本ベースとなる原案の作成を各ケース担当が行います。次に原案をもとにサービス管理責任者を中心とする個別支援検討会議を開催し、モニタリング、アセスメント、各課題について確認・修正し個別支援計画が決定されます。

この一連のプロセスにおいて重要となるのが、本人及び御家族からの意向を可能な限りプランに反映させていく事です。御家族には面会時などで意向、要望等を確認し、利用者さんは原案作成時に聞き取を行い、更に個別支援検討会議で個々に面談をして、意向に沿ったプランになるよ

う共に考えていくようにしています。

意思決定支援を重視し進めていますが、コミュニケーションの取りにくい利用者さんの意向をどのようにくみ取っていくかが課題となっております。日常の支援における気づきと対話をする事、またその特性や趣向をしっかりと把握し、その人らしい生活の実現に向け取り組んでいきたいと思っています。

本年度も大変お世話になりました。来年度も利用者の皆さんが元気に楽しく過ごせるようなイベントを計画し支援をしていきます。



利用者さんとの面談の様子

「わがわがなつ」イベント

看護師 山田 美津子

この十年くらい前から何となく始めた趣味があって、最初は一人でしました。SNSを通じて仲間ができ、近い所でも繋がりが広がるようになりました。普段は、自分一人ですが、近況を教えあっていると一緒にいるかのような気持ちになります。一人だけど一人じゃないと心の支えになるようになりました。

新型コロナウイルス後の生活が激変しましたが、新しい環境の中で（離れていても）人とのつながりがどれだけ大事なのかを知り、大切にしようになりました。今まで以上に、人々との繋がりが信頼関係が重要な時代になってきた気がします。歳を取っても人から信頼されるような人間関係を作っていくことで、「一人で居ても一人じゃない」を実感し支え合えることが、大きな幸せになるんだなあとしみじみ思う今日この頃です。年々、歳を重ねる毎に、わがままになつたり、自分の思いを強く通そうとする傾向になると言いますが、注意してくれる仲間に感謝してずっと付き合っていきたいと思っています。

給食だより

栄養士 鍵山 智美

この冬は、ノロウイルスによる食中毒が全国各地で発生し大きな話題となりました。ノロウイルスは十一月～二月にかけての冬場に多く発生する食中毒で、非常に強い感染力を持っています。潜伏期間は二十四～四十八時間で、主な症状は吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、発熱などです。

ノロウイルス食中毒を防ぐポイントには四つあります。①ノロウイルスを持ち込まないことが重要②ノロウイルスを「つけない」（食品や食器、調理器具などにウイルスが付着しないように作業する前の手洗いをしっかりとる）③ノロウイルスを「やっつける」（食品に付着したノロウイルスを死滅させるためには中心温度八十五度以上で一分以上の過熱が必要）④ノロウイルスを「ひろげない」（感染を広げないために食器や環境などの消毒を徹底する）です。普段から体調管理や厨房内の衛生管理に努め、利用者の皆さんに安全な食事の提供を行っていききたいと思います。

日中活動



大地班

あおぞら班



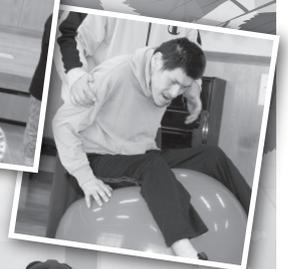
外出風景



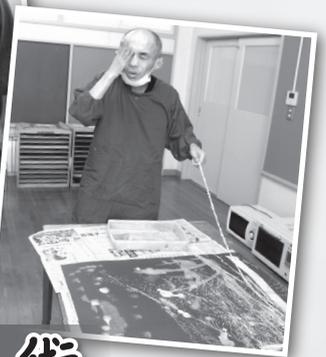
各クラブ活動風景



おやつ



スポーツ



音楽



美術





ボランティアのお願い

学園では、繕い物や草取り、その他の軽作業等の出来る方を募っています。短い時間でも結構ですので、駿豆学園にお出かけいただけないでしょうか。お待ちしております。

【お知らせ】

面会をご希望の方は、事前に電話にてご確認ください。パソコン等を利用したりモートでの面会も実施しております。

駿豆学園ホームページでもあすなろを閲覧出来るようになっていきます。

アドレスは

www.sunzugakuen.jp/になります。

ぜひ御覧ください。

編集後記

暖かい春の日差しが、心地よい季節になりました。今年度も皆様のご協力により、楽しく過ごす事ができました。今後も皆様が元気に過ごせるよう支援をしていきたいと思っています。来年度も、よろしくお願ひします。